

【資料1】弘安の役後の日本と元のように 氏名 ()

元その後のようす	日本（鎌倉幕府）のその後のようす
<p>1281年・・・①弘安の役の負け戦で、総兵力14万人のうち、約12万人を失った。</p> <p>1282年・・・②高麗（朝鮮）、揚州や泉州（中国南部）に命じて、3000隻の船の建造を開始した。</p> <p>③翌年に日本へ攻め込むことを決定した。</p> <p>1283年・・・④日本を攻めるための司令部を設置。</p> <p>⑤支配地の各地で海上訓練を実施。</p> <p>⑥弘安の役の前に中国の南宋を滅ぼしたことにより、南宋の兵士ら約40万人の捕虜をかかえ、支配する上で苦勞していた。</p> <p>1284年・・・⑦<u>日本に元の皇帝の国書を持たせた使節を派遣した。</u></p>	<p>1281年・・・①御家人は、ほとんど恩賞（土地）が得られなかったため、幕府への不満が高まった。この苦しさから、九州周辺の御家人が、御家人をやめて浪人となり、武装商船集団（のちの倭寇）になるものが多く現れた。</p> <p>②御家人の九州警備（異国警固番役）の期間が無期継続となったため、御家人の負担（借金など）が更に増えて生活がとても苦しくなった。</p> <p>③当分の間、石塁の建設が延長されることになり、御家人の負担が更に増した。</p> <p>④元への先制攻撃として高麗（朝鮮）への出兵を九州北部の3か国と近畿の大和・山城の僧兵に命じたが、御家人の苦しさから実行されずに終わった。</p> <p>※「元史」日本伝などより引用</p>

【資料2】使節が持ってきたフビライの国書

むかし、あなたの国（日本）はよく使節を送り、天子（中国皇帝）への訪問を許され、つつしんで接見していた。それに対して中国皇帝も使節を送ってかえした。それなのに、最近の日本は、わが国の使節を捕らえて返さなかった。そこで、わたしは使節を送ってとがめた。しかし、日本は固くわが使節をこぼむ。

よって、日本はすでに敵国となり、さらにこちらから使節を送るべき理由はないが、高僧の如智（にょち）らが「もし、また軍を送って日本に攻め込めば、多くの命が失われる。日本にも仏教の教えを理解している者がおり、大小強弱（日本と元のどちらが大きくて、強い）のか（論理）はわかっているはずだ。日本は自ら反省し、心から元に従うだろう」という。今、高僧如智とあと2人を日本に行かせた。善なるものは和のほかになく、悪なるものは戦争のほかはない。これをじっくり考えて従えば、すぐに使節を元に送りなさい。この国書にある私の意を全て知り、じっくり考えなさい。

1 年歴史ワークシート「元寇」No, 2

●学習課題

()号 氏名()

弘安の役の後、元の使節が国書を持ってやってきた。あなたが執権ならどう対応しますか？

激しい戦いだった弘安の役で、元軍は九州の御家人の頑張りや石塁の効果、暴風雨などにより壊滅的な敗北をしました。その弘安の役の後、元の使節が皇帝の国書を持って再び日本にやって来ました。幕府の執権であるあなたは、①国書を受け入れて使節を元に送り、交流を始める、②国書を拒否し、元軍を迎え撃つ準備をする、のどちらかを選ぶことになりました。

1 上の①、②の対応をした場合、日本（鎌倉幕府）にどのようなメリットとデメリットがあるのかを整理してみたいと思います。じっくり考えて下の表の中にメリットとデメリットを書いてください。

(あとで、友達の見解もここに書き加えてください。)

執権（幕府）の対応	日本のメリット（よい点）	日本のデメリット（よくない点）
○国書を受け入れて、使節を元に送る。		
○使節の国書を拒否して、元軍を迎え撃つ（戦争）準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの幕府（日本）の外交政策（外国には従わない）が揺るがないことを内外に示せる。 	

2 【資料1】、【資料2】の内容とメリット・デメリットの表を参考に、最終的な自分の意思を決定しよう。

【意思決定Ⅰ】

- 私が執権なら、（ ①国書受け入れて使節を送る ・ ②国書を拒否して迎え撃つ準備をする ）
その理由は、以下の通りです。

--

3 班員の意見をメモしよう。（メモできていない人には、いつものようにまわりが応援をしてください）

班員の名前	対応番号	理由をメモしよう

5 班の話し合いのあと、鎌倉幕府の執権は①（国書を受け入れて、使節を派遣する、

②（国書を拒否して、迎え討つ準備をするの、どちらの対応をしたと思いますか。

①か②で書きなさい。

--

6 次の課題に対して、あなたはどのように思いますか。思ったことを書いてください。 【意思決定Ⅱ】

☆次時の討論のテーマ

--

●自分の考え（ 正しかった ・ 正しくなかった ）

●理由

----- ----- ----- -----
